

しる、みる、感じる

じぶん と ちいき
自分 × 地域

NPOインターン活動報告
2019年度



 とちぎコミュニティ基金

 たかはら子ども未来基金
A BRIGHT FUTURE IS WAITING FOR EVERY CHILDREN.

若者と地域に、未来への種まき。

たかはら子ども未来基金の NPOインターンとは？

大学生や大学院生などの若者がNPOで6ヶ月間(活動日は約24日)インターンシップ(就労体験)をするプログラムです。

活動に参加する学生に奨励金、団体に助成金を支援し(※)インターン全体のプログラムサポートを行います。栃木県内在住のTさん夫妻が設立した基金に支えられて2017年から始まりました。

2019年度は、大学生5人が4つのNPOで活動を行いました。

※2019年度は、学生1人に10万円ずつ、各団体に10万円ずつを渡して活動が行われました。他の基金のプログラムの予算の関係で金額が変わることもあります。

▼NPOインターンシップとは？



就労とボランティアの間にある就労体験です。学生が地域やNPOについて学び、社会参加するきっかけづくりにもなります。

たかはら子ども未来基金創設者 Tさんの思い

厳しい那須開拓の時代を経て発展したこの地域や人々には、これまでずっと支えられてきました。地域に恩返しをしたいと思い、なかでも子どもや若者を応援する未来への投資のためにこの基金を立ち上げました。

このインターンは、ボランティアではできない関係性ができ、一步踏み込んだ活動に挑戦できるものです。学生を受け入れている団体の皆様からの日々のサポート実現できません。感謝申し上げます。3年目を終えて、昨年参加した学生が今も活動に関わっていたり、学生がいることでより深い成果がみえてきたりと、活動のこれからに大いに期待しています。



▶ NPOインターンのメリット

身になる経験
ができる

多様な人と
出会える

活動の理念を
伝えられる

活動が改善
される

NPOや地域活動に
関心が高まる

組織の士気・団体の
認知度が高まる

インターン生

受入団体

地域

- 地域の取り組みが活性化する
- 多様なつながりが生まれる
- 地域への関心が高まる



▶ このインターンの特徴

6か月じっくり

半年の活動を通して、団体の人も仲良くなれ、活動のリアルも見られます。

インターン生同士仲良くなれる

交流会やSNSグループで、活動の情報交換や疑問・不安を共有できます。

奨励金がもらえる

バイトや学業で忙しい学生も参加しやすい仕組みです。

5月 | 応募期間

●団体の応募

まず、受入団体の応募を行います。活動の内容や学生を受け入れるときのサポートなどが十分にあるかを審査します。



●学生の応募

受入団体が決まったら、学生の応募も最終段階に。団体の活動内容や期間をみて、第2希望まで選べます。



団体の希望と学生の希望を調整してマッチングします。

8～2月 | インターンシップ

半年間のインターンシップは、各団体と学生の日程に合わせて活動します。活動日は、6ヶ月で24日程度が目安です。たとえば、週に1回活動する人もいれば、長期休みを活用して活動日を集中させる人もいます。



11月 | 団体向け勉強会

【若者がワクワクする活動をつくるin栃木】

団体向けの勉強会を行いました。今回の勉強会の共通メッセージは、若者との活動は「種まきと水やり」のようなもので、地道に若者が参加しやすい企画をつくる種まき、若者が継続して参加しやすい組織になるための水やり、が必要ということでした。(→P6)



8月 | 贈呈式・オリエンテーション

ついにスタート！オリエンテーションでは、団体と学生で顔を合わせ、インターンシップの心構えや内容を共有します。



また、みんなの期待すること&不安なことを出し合いました。なかでも「このインターンシップが団体、学生、地域の出会いの架け橋となるといい」という言葉が印象的で、みんなの意識も同じ方向に向かい、いいスタートとなりました。

定期 | 学生交流会

2か月に1度程度、交流会を開催しました。一緒にご飯を食べながら各自の活動の様子をざっくばらんに話しました。



インターンの様子を伝えるかわら版「たかはら日和」もここから生まれました。(→P6)

3月 | 活動報告会

学生&団体それぞれによる報告発表や、学生同士での交流会などの報告など、ユニークな活動報告がありました。

発表ででてきたエピソードはさまざまですが、発表の内容やスライド資料が素晴らしい！と来場したみなさんから大絶賛でした。



基金創設者 Tさんから

活動報告会は、よくまとめられた素晴らしい発表で、学生の皆さんの可能性が良く見えた一面でした。本業でできるボランティアが必ずある。“ボランティア活動をどう仕事にできるか”学生にはこれを考えてほしいと思います。

子どもの居場所
アットホームきよはら

子どもの居場所
まちづくり

活動内容

- 子どもたちとの自由時間
(遊ぶ/宿題をする/本を読む etc)
- みんなでごはんやおやつを食べる
- お風呂・送迎の付き添い
- イベント企画



団体からひとこと

子供との接し方や守ってもらいたいことを伝え、後は自由に関わってもらった。学生自身が自分で感じ、考えながら子どもたちに接していたように思う。

インターン生/ 稲川 夕梨(21)
大山 春香(18)



目標

私と関わることで、子どもたちがその日を振り返った時に「楽しかった」と思ってもらえるよう心掛けた。

難しかったこと

親や先生ではない立場の大人が子どもたちに注意したり、叱ったりすることの難しさを感じた。

インターンを終えて…

・インターンでの経験を、就活での話題にしたり、他の子ども支援の場などにも活かしたりできた。
・自分がどんなことに興味があるのかを考え、今後大学でどんな授業を受けるか考えるきっかけになった。

一般社団法人えんがお

多世代交流
地域づくり

活動内容

- 生活支援同行
- えほん図書館プロジェクト
- コミュニティサロン
- フレンドクラウドファンディングでの資金集め
- 大学の講義でのプレゼン



団体からひとこと

インターン性に主体的に動いてもらうことができ、スタッフだけでは気づかない部分まで整えてもらい、このインターンがなければ生まれない景色が多くあった。

インターン生/ 會田 未来(22)



目標

以前からボランティアとして関わっていたので、スタッフ側の動きを知りたい。

難しかったこと

ボランティアとして関わっている団体であったため、よりインターンとして成り立たせるためにはどのような行動をしていったらいいのかが難しかった。

インターンを終えて…

企画運営したイベントをきっかけに、新たな参加者の姿が見られ、種をまくことができた。
団体を深く知り学べるだけでなく、課題への向き合い方・自身の振る舞い方など団体内に限らない部分を養えた。

サシバの里自然学校

自然体験
里山整備
自然教育

活動内容

- こどもキャンプ運営
- 下草刈り農作業
- 東屋づくり
- 大学での学生イベント



NPO法人オオタカ保護基金
サシバの里自然学校



インターン生/桂野 葵(21)

目標

ボランティアとなる学生を触発するイベントの企画運営をしたい。

団体の話を積極的に聞き、体験プログラムを運営する上での視点を養いたい。



難しかったこと

子どもたちが安心して楽しむことができる環境と、安全に活動できる環境の両立のバランスをはかることが難しかった。

団体からひとこと

学生自らが大学で学んでいる地域づくりを意識しながら、活動に参加してくれていたのが、団体としても地域のイベントや環境教育活動などで活躍の場を与えることができた。

インターンを終えて…

インターンシップの集大成として、学生目線で学生に伝えることで団体に対する興味・関心を引き出し、参加する1つのキッカケとして挿んでもらえるようなイベントを企画できた。

たかねざわぼかぼか食堂

子ども食堂

活動内容

- 子どもたちと遊ぶ
- メニューの考案
- イベントへの参加



インターン生/岡浜 陸(21)

目標

ボランティアのお母さんたちが安心して活動できる環境づくりと、子どもとの関わり方に深く目を向けたい。



難しかったこと

もう少し積極的にイベント企画、イベント参加、メニューの充実に努めたかった。

インターンを終えて…

子どもたちは彼らなりに考えを持っていて、何をどう伝えたら納得してくれるか、言い方ひとつで子どもの態度が大きく変わること気がついた。子どもたちの目線で物事を見ると、普段では見えない景色が見えた。

団体からひとこと

食堂のお手伝いをする子どもスタッフにとっても、年齢の近いお兄さんがいてくれることで、楽しくやれていた。食堂の新メニューを提案してもらえたことはとてもよかった。

インターン生交流会

交流会は、別の団体で活動するインターン生の交流の場。2か月に1度程度、計4回おこないました。

ご飯の後は近況報告や日々の活動の面白いことを話したり、悩みについて皆で解決策を出し合いました。さらに

- NPOインターンの瓦版「たかはら日和」作成
- 他の団体への見学ツアー企画

これらは交流会で意見を交わすなかで企画されました。



はじめての交流会。メニューはお好み焼！



そもそも、NPOって何だろう？



たかはら日和の作成、頑張るぞ！

インターン生の感想

他のインターン生との交流は刺激になり、自分の活動へのモチベーションになった。

交流会もたかはら日和も面白かったので、来年も続けてほしい。

交流会で不安や課題の共有や、改善策を提案し合うことができ、活動を続けていくうえで役立った。



こちらから

交流会から生まれた瓦版「たかはら日和」

- 活動をもっと色々な人に伝えたい
- NPOのことを知らない学生や、何か始めたい学生に知ってほしいとの思いから、インターン生それぞれの視点と力が合わさって作られました。

- 12月号 | インターン生の自己紹介
- 1月号 | NPOインターンのあれこれ
- 2月号 | 活動紹介・半年を振り返って



団体向け勉強会

若者がワクワクする活動をつくるin栃木 11月22日（金）宇都宮市まちづくりセンターまちびあ

今回の勉強会の共通メッセージは、若者との活動は「種まきと水やり」。地道に若者が参加しやすい企画をつくる“種まき”、若者が継続して参加しやすい組織づくりという意味での“水やり”が必要ということでした。このような勉強会をきっかけに、色々な情報交換やネットワークの必要性も感じました。



ワクワクする活動をつくるには?! 意見交換会

- 団体側は学生の自由な活動をできるよう、責任を持ちサポートする
- おせっかいな人(団体スタッフ)がどんどん巻き込む
- 参加したOBOGの学生が、新しい参加学生を支える仕組みをつくる
- 学生は「成長できる!」というワクワクを求めている



ボランティアでは気づけなかった視点や体験に触れられました。また長期間だからこそ、団体が持つ幅広いネットワークに触れられたり、季節を感じる活動に関わったりできました。少しでも興味を持つことができたなら、それだけで財産です。それをよりよいものとするためにも、活動を頑張ってみてください！

桂野 葵(21)
/サシバの里自然学校



学生から

半年間と聞くとハードルが高いように思えますが、やればあつという間です。長い間1つの団体に関われる経験も、このインターンだからこそ。必ず身になることがあるので、是非挑戦してみてください！

稲川 夕梨(21)
/アットホームきよはら



やっと大学になじみ始めたころに応募したインターン。6か月間やり遂げられるか不安でした。しかし周りの方がとても優しく、なんとかやっていけました。活動は週に1回ほど。バイトやサークルと無理なく両立でき、もっと活動日を増やしたいと思うほどでした。何か始めたい人は挑戦してもらいたいです。

大山 春香(18)
/アットホームきよはら

参加するコツは特にありません(笑)。興味とやる気があれば、どんどん参加してほしいです。団体とよくコミュニケーションを取ったり自分にできることを考たり、色々もがいてみてください。学生の柔軟さを生かして、自分も団体の人も楽しくなれるように、活動できたらいいのかな、と思います。

會田 未来(22)
/えんがお

学生の意欲を引き出すために、やりたいことなどを聴いた上で、補助しすぎずに任せて、成果をしっかり確認して評価していくことが大切だと思います。

えんがお

団体から

自分たち団体のためではなく、将来のある学生のために運営側がどのようなことができるのか、話し合っコミュニケーションをとることが大切だと思いました。

たかねざわぼかぼか食堂

インターン生の想いと、団体の想いが重なり合うことでこれまで以上のパワーが生み出せます。ぜひお互いにとっていい出会いがありますように！

サシバの里自然学校



子どもとの関わりについてスタッフと学生さんが一緒に学ぶ機会を設けると、お互いにいい学びの機会になると思います。

アットホームきよはら



NPOインターンのあれこれ Q&A

Q. 1人で初めて申し込むのは少し不安…。

A - 同じ仕組みで他のNPOに参加する学生と、一緒にオリエンテーションや振り返りを行います。そこで、心配事や困りごとを共有したり、他の活動も知れたり、同じ期のメンバーとしての交流の場もあります。また、とちぎコミュニティ基金のスタッフも常に連絡をとりながら、ときに団体と参加学生の間に入って相談に乗ることも可能です。



Q. 6ヶ月間、毎週は参加できないけど大丈夫？

A - 奨励金をお渡しする活動日数は24日間程度です。長期休みの時にある程度まとめて参加することもできます。

Q. どんな人が参加しているの？

A - 栃木県内に在学する学生なら誰でも。1年生～4年生、大学院生まで参加可能です。県内在住の方を優先しますが、栃木県出身の方でも申し込いただけます。



Q. 自動車やバイクがないので、通えるか心配。

A - まずは、団体の方と相談してみましょ。公共交通機関の最寄り駅から、スタッフが迎えに来てもらえる場合もあるので安心です。

Q. 活動する場所はどこ？

A - 基金を設立した方の、栃木県内の県北地域、高原山が見える場所を応援したいという意向により、県南を除いた、栃木県内全域です。矢板市、塩谷町、高根沢町、さくら市、大田原市、那須塩原市、那須町、那珂川町、那須烏山市、宇都宮市、上三川町、壬生町、日光市、鹿沼市、芳賀郡、真岡市 を中心に活動する団体のところで活動します。



2020年6月 発行

〒320-0027

栃木県宇都宮市塙田2-5-1 共生ビル3階
認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク内

TEL 028-622-0021

FAX 028-623-6036

MAIL info@tochicomi.org

HP <https://www.tochicomi.org/>



2020年度のNPOインターンは、ただいま準備中！
募集が始まり次第、ホームページにてお知らせいたします。